日本海岸林学会公開シンポジウム

高田松原再生の歩みと課題

― 未曾有の津波被害を越えて ―

2025年10月4日（土曜日）13:30～16:00

陸前高田市民文化会館

「奇跡の一本松ホール」　ルーム 1

講演1　消えた高田松原の再生を目指して

特定非営利活動法人 高田松原を守る会　千田 勝治 氏

講演2　高田松原、そして日本の松原の未来

一般財団法人 日本緑化センター　滝 邦夫 氏

講演3　盛土を伴う海岸林再生における留意点

～ ねばり強い海岸林の再生のために ～

森林研究・整備機構 森林総合研究所東北支所　小野 賢二 氏

日本海岸林学会 公開シンポジウム
高田松原再生の歩みと課題― 未曾有の津波被害を越えて ―

講演1　消えた高田松原の再生を目指して

特定非営利活動法人 高田松原を守る会　千田 勝治 氏

美しい松原を守るために活動していた高田松原を守る会。東日本大震災からわずか数ヶ月後、流れ去ってしまった松原の再生を目指して立ち上がりました。その気持ちに応えるように、地元だけでなく、全国から多くのボランティアが集いました。

陸前高田市と連携を取りながら、苗木づくり、植栽試験などの試行錯誤を経て、4万本に上る植栽活動が始まりました。新しい高田松原を育て50年後の完成を目指して。

明るく楽しい作業の声がこのまちに響きました。

（一般社団法人ベターリビング「高田松原 since 2014 ブルー＆グリーンプロジェクト高田松原再生・植栽活動の記録」より）

講演2　高田松原、そして日本の松原の未来

一般財団法人 日本緑化センター　滝 邦夫 氏

市民による高田松原の再生活動は2015年から本格的に始まる。最初に生育基盤造成に使う予定の土壌による苗木試験植栽、市民エリアに植える抵抗性クロマツ種子の調達と育苗に着手した。

海岸防災林の生育基盤造成と植栽を実施する岩手県大船渡農林振興センターと地元の高田松原を守る会との協議を重ねながら、全体８haの植栽面積のうち、２haが市民による植樹エリアとして認められた。守る会の皆さんと意見交換し、①『大勢の人たち』の参加を促す、②『顔が見える』ような参加をめざす、③『一緒に歩む』ような進め方にする、という再生3原則を掲げた。実際の植栽は、2017年～2021年にかけて、途中、展望台建設に伴う資材置き場の占有、感染症対策などで2年伸びたが、2021年5月に最終の植樹祭を行い約1万本の植樹（5,000本/ha）を完了した。この間の動きを振り返る。

当センターは「日本の白砂清松100選」のリニューアル版を発刊、その後Web版「身近な松原散策ガイド」を公表し、現在、掲載している松原は全国で125か所となる。機関誌「グリーン・エージ」の連載『現在の松原人』では、これまで全国42か所の松原において活動する人たちを紹介している。これら現在進行形の松原の姿から、松原の価値、新たな活動の担い手について考察する。

講演3　盛土を伴う海岸林再生における留意点　～ ねばり強い海岸林の再生のために ～

森林研究・整備機構 森林総合研究所東北支所　小野 賢二 氏

東日本大震災大津波の襲来を受けた海岸林では、津波被害を減災した事例は多々認められた一方で、海岸林自身も甚大な被害を受けた。特に、汀線近くの地盤高が低く、相対的な地下水位が高い場所では、樹木根系の発達状態が浅く、多くの海岸林では、樹木が津波によって根ごと流され、流失した。こうしたことを背景に、津波で被災した海岸林の復旧・復興では、海岸林従来の防災機能に加えて、将来の津波災害に備えることも想定して、十分に土層深くまで根系を発達させた海岸林を再生させるための工事が進められた。すなわち、植栽木の根が地中深くまで健全に伸びられるよう、盛土して地盤を嵩上げした生育基盤盛土工が実施された。岩手県陸前高田市の高田松原の再生も、こうした例にたがわず、高さ３ｍの第一線堤と12.5ｍの第二選定の間に、外来の盛土資材を搬入することにより生育基盤を整備して、津波に対して、まさに“ねばり（根張り）”強い松原の再生が行われた。発表者らは、海岸林を再生するために人工的に整備された生育基盤において、期待通りの“ねばり”強い海岸林が再生されるのかを確認するため、各地で、人工生育基盤の土壌の状態や、そこに植栽された樹木の根系のようすを調査してきた。本発表では、それらの結果について紹介するとともに、“ねばり”強い海岸林再生のために必要な、盛土を伴う海岸林再生における留意点を参加者とともに考える場としたい。